

「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

森脇肇子

初夏の刈り作業

2019年7月17日(水) 9:00~14:30

作業項目:

調査区内のネザサの選択刈り取り

調査区No.3、5、6のネザサを選択的に刈り取る。

参加者: 斧田、田島、桐村、森脇 (4名)

作業内容:

参加者39名が2つの班に分かれ、調査区内にあるネザサだけを手刈りする。いつも作業前に、人と自然の博物館の橋本先生から作業説明があるが、今回はそれに加えて作業内容の

理解には植物の知識と習得が不可欠だということや、この活動による保全効果についての解説があった。ス

ズコイコ、オカトラノオ、オトギリソウ、センブリ、リンドウ etc... 葉や茎の特徴を教わり、そのまま残すようにとの要請。また、手鎌の使用方法についてのレクチャーもあった。手鎌を持っていない方の手で、無造作に植物の根元の辺りを一握りつかみ細めの茎を刈る。目視が必要だが、それがだいたいネザサの確立が高いとのこと。鎌の刃に沿って円を描くようにするとやり易いとのアドバイスも。30分位の説明の後、作業開始。

JACのメンバーの作業場は無風の炎天下。何もしていなくても大量の汗が流れてくる。地面にしゃがみこみ地道に少量のネザサを選んで刈り取っていく。草に覆われた地面から生温かい水蒸気が沸いてきて暑さに拍車がかかる。首に巻いているタオルも汗でぐっしょりになった。一時間ごとの休憩には熱中症にならないように水分を補給する。いつも持参したお茶は余るのに、今日は最後の休憩で無くなってしまった。そして終わってみると…絶望的な気分にした草むらが、夏風に揺れるさわやかな草原生植物の庭に大変身! どんなに時代が発達してもここでの作業は先人の大変さを実感させられる。忘れていた夏を思い出し感謝した。

